

「いもち病注意報」が発表されました
～葉いもち・穂いもちの拡大に注意！～

「きらみずき」は原則、いもち病の防除はできません。
いもち病に感染しないほ場管理に努めましょう。

1 発生状況

平年と比べ、「葉いもち」の発生時期は早く、発生量は過去10年で最も多い状況です。すでに、東近江管内の「きらみずき」でも発生を確認しています。



葉いもちによるずり込み症状



葉いもちの病斑

2 今後の対応

○「葉いもち」は、「穂いもち」の伝染源になります。また、いもち病は窒素過剰、軟弱、日陰の稲等で発生しやすくなります。

○畦畔等の草刈りを徹底し、風通しや日当たりを良好にしましょう。

○すでに「葉いもち」の発生を確認しているほ場や、例年、いもち病が発生しやすい地域では、**穂肥を2回に分けて施用する、施肥量を減らすなど葉色を濃くし過ぎないように注意しましょう。**

【基準の施肥体系】

穂肥施用時期	1回目 (幼穂形成期の1週間前頃)	2回目
必要窒素分量	窒素成分4kg/10a	—

【いもち病の発生に応じた施用体系】

穂肥施用時期	1回目 (幼穂形成期の1週間前頃)	2回目 (1回目の1週間後)
必要窒素分量	窒素成分2～1kg/10a	窒素成分2～1kg/10a

※葉色が濃い場合は、施用時期を遅らせましょう。